

# 第8回大会報告

## ◆総括

### 川崎晴久

大会長（岐阜大学）

好天に恵まれた9月17日～19日の第8回大会が無事終了して安堵しているところです。今回の大会が岐阜で開かれたことに関係者は大変に荣誉と受け止めています。とくに、岐阜県では新産業の中核技術としてバーチャルリアリティに注目して各種の産業施策を実施し、この分野の産業創生を目指してきています。そうした中で、大会を開催できたことは、岐阜県関係者、地元の研究者にとっては大いなる励みになりました。

今回の岐阜大会での基本方針として、岐阜の特色を出して、岐阜を理解していただき、今後のVRの活動の連帯、情報交換の活性化に繋がたいということを主眼におきました。実行委員には、岐阜大学、岐阜県立情報科学芸術大学院、名大、名工大等の研究者のみならず、岐阜県の情報産業室や科学技術振興センターの自治体関係者など多数の方に入っていただきました。このことにこの場を借りて感謝申し上げます。

また、岐阜に来られる方々には、何か思い出になるようなプレ懇親会と懇親会を考え、プレ懇親会では1300年の歴史のある長良川鶺鴒遊覧を企画し、懇親会では岐阜県立情報科学芸術大学院の赤松正之教授に「存在ト時間#2」と題して、TV映像に同期した打楽器のリアルタイム演奏を依頼しました。多くの参加者に歴史の深い味わいと最先端芸術のインパクトを感じ取っていただけたことと思っています。

一方、大会での講演発表件数は179件、講演参加者数412名となり、過去の大会の中で最多となりました。また、企業展示は15件と地方開催としては多くの企業の協力を得ることができました。この企業展示では、展示ブースを訪問し、スタンプカードにシールをはって、7

社以上訪問すると岐阜名産のスペシャルギフトをプレゼントするスタンプラリーを実施しました。事前の宣伝が十分でなかったためか、ギフトを受け取った方は少なかつたようですが、企業には好評でした。

企業展示以外では、招待展示1件、技術展示8件、作品展示9件と集まり、これらは一般の方が見学できるように岐阜駅隣接のアクティブGで展示しました。新聞社も3社取材に訪れ、企業・作品・技術展示を中心に大会の様子が記事となり、岐阜市民にもとてもよい刺激になりました。

中日の特別講演は岐阜県立情報科学芸術大学院の元学長である坂根巖夫先生に「境界を超えて拡張するアート-その現状と未来-」と題して講演をしていただきました。本講演も一般の方が聴講できるようにしました。盛りだくさんの関連作品や最新映像があり、その中でアートは人間のサバイバルに根ざしているとお話は、未来のメディア文化に期待するものについて含蓄の深いものでありました。坂根先生には、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。

最終日は、約65名の方が、2台のバスに乗りいただき岐阜大学VSLとテクノプラザで開催の手づくり学生VRコンテストにテクニカルツアーということで見学いただきました。

以上、おかげさまで持ちまして、無事に終了したことに参加された皆様のご支援ご協力を心より感謝申し上げます。



懇親会 大会長挨拶